

ことば  
文学とアート  
意識を追いかす指先

10  
October  
2023 NO.175

# Art Collectors'

The Pleasure To See.  
The Pleasure To Buy.

意識を追いかす指先

アート

文  
ことば  
学

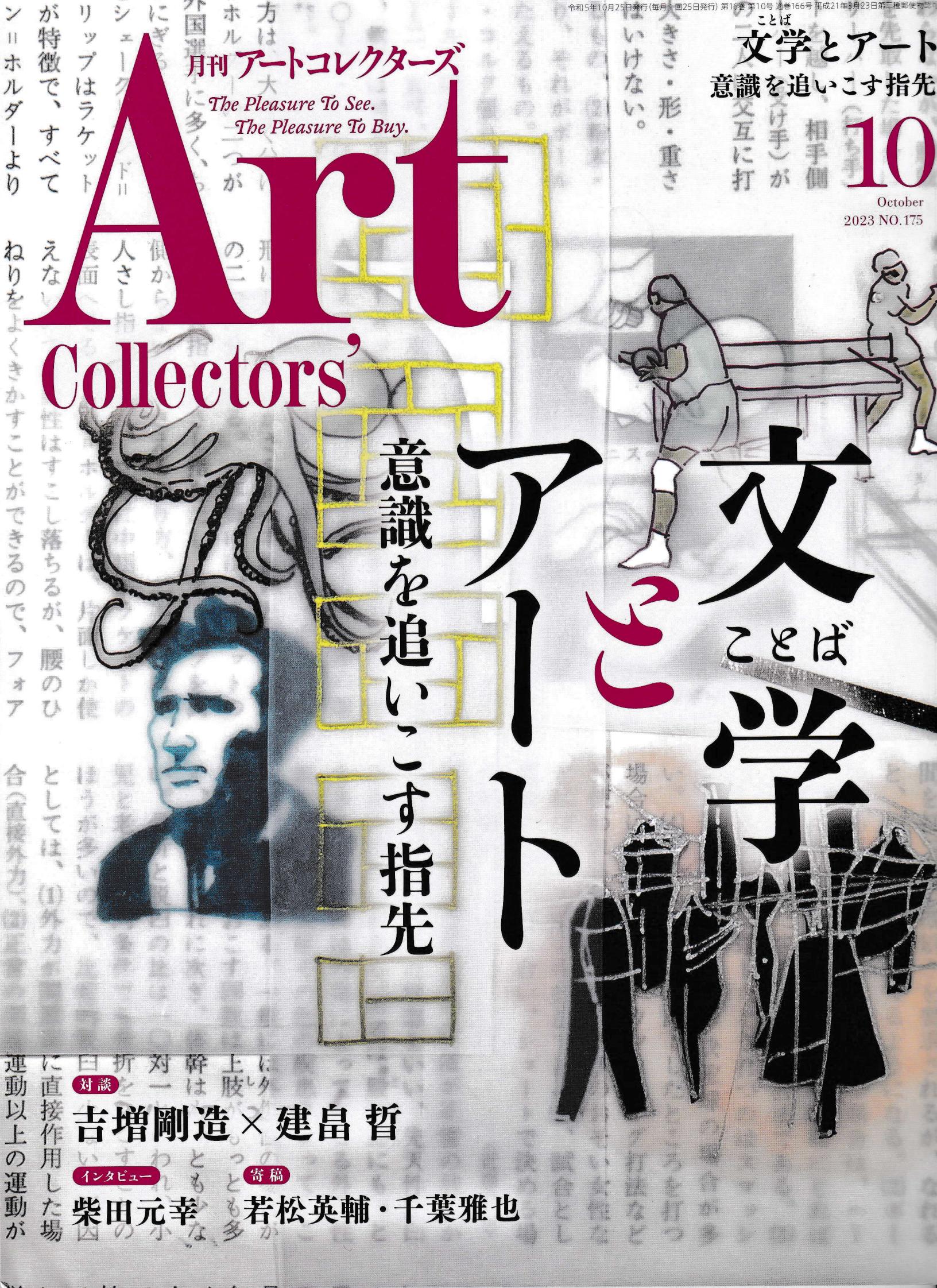


吉増剛造×建畠誓

対談  
インタビュー

柴田元幸  
若松英輔・千葉雅也

寄稿



# 鈴木ヒラク

先人との対話を糧に  
タイトロープを歩き続ける

ドローイングの可能性  
——鈴木さんは日本におけるドローイング概念の拡張を模索し続けています。

歐米ではドローイングの研究が進んでいて、例えばアメリカではザ・ドローイング・センターという専門の機関があり、ドローイングの再定義と再評価を行っています。今まで絵画のための下絵としてしか見られていないなか、ドローイングが独立して、さらにそこから新しい表現が生まれていくのを目の当たりにして、日本でそういったドローイング史の研究や定義付けが抜け落ちている事実を感じました。日本は書や漫画

など線に対する愛着が強く残っているのにもかかわらず、それによって生まれた表現をドローイングとして解釈し、論じることがなされていません。今回ドローイング論を執筆しました。今後の想いが前提になります。

また娘が生まれて思い出したので、「描く」と「書く」が分かれていません。娘は、引っ搔いたりする

のですが、子供がドローイングをする時、

「描く」と「書く」が分かれていません。娘は、引っ搔いたりする

ことで生まれる線にその都度驚いて絵画のための下絵としてしか見られていないなか、ドローイングが独立して、さらにそこから新しい表現が生まれていくのを目の当たりにして、日本でそういったドローイング史の研究や定義付けが抜け落ちている事実を感じました。日本は書や漫画

## ドローイングの可能性

——鈴木さんは日本におけるドローイング概念の拡張を模索し続けています。

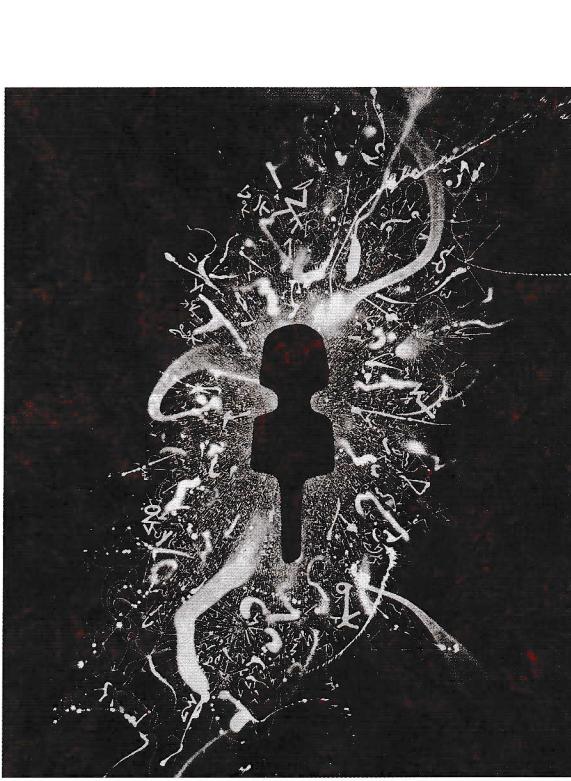
など線に対する愛着が強く残っているのにもかかわらず、それによって

生まれた表現をドローイングとして

解釈し、論じることがなされていません。今回ドローイング論を執筆しました。今後の想いが前提になります。

また娘が生まれて思い出したので、「描く」と「書く」が分かれていません。娘は、引っ搔いたりする

のですが、子供がドローイングをする時、



「Interexcavation #13」2019年 シルバーインク、土、アクリル、顔料、キャンバス  
各H194×W162×D3cm 個人蔵 (群馬県立近代美術館寄託)  
© Hiraku Suzuki Studio

——ドローイングの大きな特徴として即興性がありますが、そこは意識されていますか。

西洋ではイタリア語で素描を意味するディゼニョこそが、事物に輪郭線を与える世界を規定できるトルネッサンス期に盛んに主張され、その考えが英語に翻訳されてドローイングと呼ばれました。僕はそこからさらに発展して、漢字文化圏に特有の書をはじめとする「書く」と「描く」

が即興を意識しています。それは発見の連続を積み重ねていくということです。僕の場合は音楽家とセッションする機会が多いので、即興性はヨーロッパのジャズのようなどらわれない心で見つけ出したい。例えばオーネット・コールマンのサックスには迷

が行つてきただ豊かな表現を西洋のド

ローリング史に接続させることでド

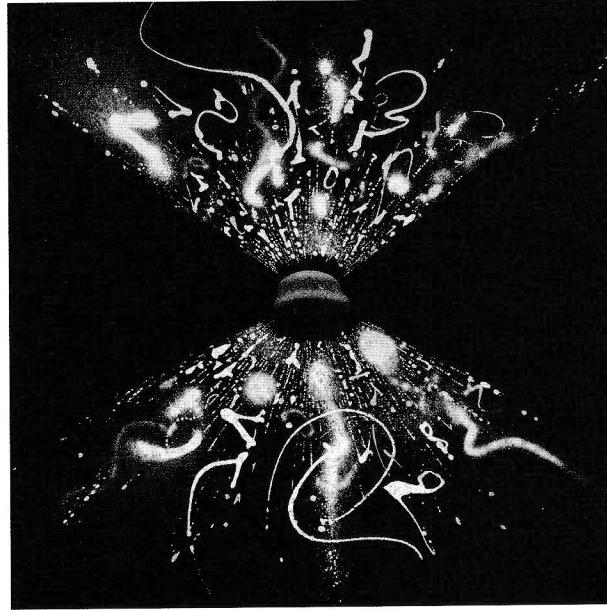
ローイングの可能性が広がると考え

ています。

——ドローイングの大きな特徴として即興性がありますが、そこは意識されていますか。

パフォーマンスでも制作でも等しく即興を意識しています。それは発見の連続を積み重ねていくということです。僕の場合は音楽家とセッションする機会が多いので、即興性はヨーロッパのジャズのようなどらわれない心で見つけ出したい。例えばオーネ

ット・コールマンのサックスには迷



【隕石が書く(S/S) #6】 2023年 漆器(ボルト止め)、シルバー、インク、土、アクリル、キャンバス H73×W73×D9 cm 作家蔵 Photo by Chen Hsin  
Wei © Hiraku Suzuki Studio

を導き出す過程に必然性がある。実はタイトロープの上を渡るように演奏しているのかもしれないのですが、そういう危うさを全く感じさせません。それはきっとコールマンが目の前の不思議なものに集中し続けていたからだと思います。今までこうしてきたから次はこうしなければならないと頭で考えてしまうと彼のような必然性は生まれなかつたように思います。

——鈴木さんは音楽家の他に詩人の吉増剛造をはじめ様々なジャンルの方々ともコラボレーションをされています。

吉増さんは僕にとつて師匠のよう  
な存在で、手だけではなく口からも  
ドローリングを吐き出して いる方で  
す。2016年の山形ビエンナーレ  
と17年の札幌国際芸術祭でセッショ  
ンさせていただいたのですが、ちょ  
うどその頃は吉増さん(ドリップ)

変化があつた時期のように思います  
実はそれまで自分はドリッピング  
に抵抗がありました。実際はコント  
ロールが効くにもかかわらず偶然性  
を装うことにあざとさを感じていた  
からです。けれど吉増さんがドリッピ  
ングをしていた時にポツリと「こ  
れはかいているんだよなあ」と呟いて  
いたのが引っかかって、その後あ  
の時の「かいている」というのは絵  
を描くほうか文字を書く方が聞いて

「もちろん文字を書く方だ」とおつしやつていて、その時にドリッピングによつて空中に発生させた線にも書き言葉としての筆跡が宿るのだと教えられました。そして後の対談で吉増さんが当時について「筆致つてものが表面から離陸しちやつてるよね」とおつしやつた時には、書くと描くの根源から空間へと線を拡張させる最前線のアーティストなのだと改めて感銘を受けました。

——今回実行される『DRAWING ディレクション』も実験の一つなのでし

——『GENGA』(河出書房新社刊)を発表された際、既存の言葉では言い尽くせないことが多すぎるとおっしゃっていましたが、どのようなところに言語の限界性を感じていたのですか。

例えば好きすぎて言葉にならないとか、感覚を言葉に翻訳するのは限界があります。それと対照的なのが言葉から感覚を擰もうとする詩であり、そこには言語の新たな可能性が開かれています。新たな言語を獲得するというのは実験の連続ですが、ただ闇雲に進み続けているわけではありません。ウイリアム・バロウズとブライオン・ガイシン<sup>※3</sup>のカットアッピ技法をはじめ、そういう試みは無数にあります。日本でも例えば比田井南谷は純粹な線としての書を志

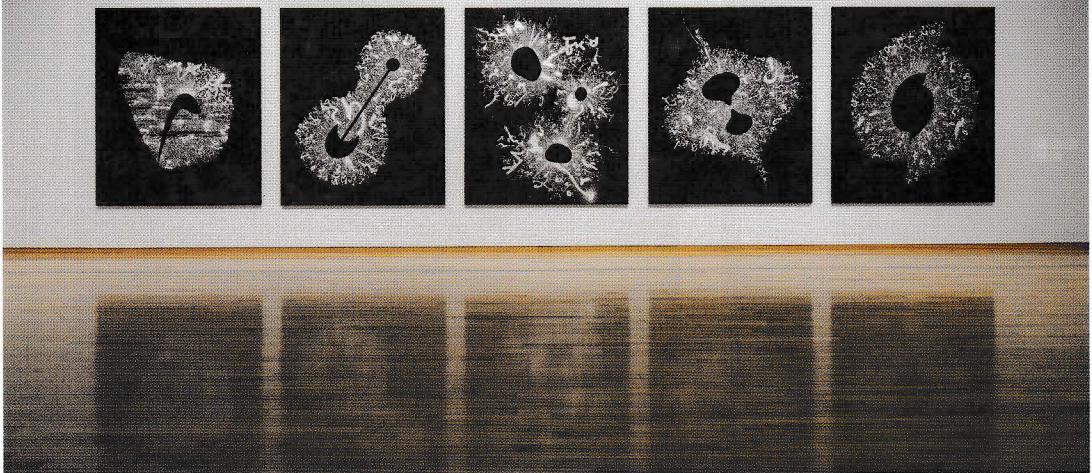
臆することなく進み続ける

そうですね。本書は言葉でドローイングをするように書き上げたこともあり、ドローイング論であると同時に一つの作品だと思っています。実は今回本を出すきっかけになつたのは友人の坂口恭平でした。毎日彼が自作の絵をメールで送つてくるのですが、それに対してコメントをしていたら、そのコメントをもとに本を作ろうつて言つてきましたね。彼もまた臆することなく進み続けてくれたのかもしれません。執筆作業は自分にとつて発掘作業のようでもあり、書くことで思い出された古い記憶が人類の根源的な記憶とリンクして、最も内側にある感覚に触れたような気持ちになり涙が出てくることもありました。この感動はドローリングで湧きあがる感動と同じものですが、ドローイングしながら涙

ようか。

を流すことはありません。文字の方が人間的だからこそ感情に訴えかけてきたのかかもしれません。

普段は人間ではなくむしろ風や木、鳥ひいては宇宙人など人間以外に向けて作品を制作しているのですが、



(右から)「Interexcavation #01, #02, #06, #05, #21」2019年 シルバーインク、土、アクリル、顔料、キャンバス 各H194×W162×D3cm  
東京都現代美術館蔵 「MOTコレクション 光みつる庭／途切れないささやき」(東京都現代美術館)展示風景 2022年  
Photo by Masaru Yanagiba © Hiraku Suzuki Studio

本に関する言語を用いる以上対象は人間に限定されますし、人と人が結びつくと、必然的に感情が生まれます。自然や宇宙は人間の感情を超えた透き通った世界です。僕は子供の頃の記憶や娘をはじめとする人々との出会いを通して芽生えた人間的な感情が、宇宙のような透き通った世界を経由しつつ相互に跳ね返つてくるようにしたい。日本の詩人だとたと思います。あの独特な静けさはまだ・みちおさんはそれをやつていたと思います。宇宙を経由した言葉をこちらに投げかけているような気がします。当たり前のことを本当にそのまま書いているのですが、嬉しいや悲しいなどの感情からかけ離れた世界を感じますね。

——鈴木さんは東京藝術大学大学院で教育にも携わっています。

教えるというよりも、世界中から

集まつた作家の卵とドローイングセ

ッショングをしている気持ちで臨んで

います。今の美術教育やアートの世

界は完成形を作ることに固執して、

過程よりも結果が重視されています。

だから逆算的に作品を作る若い作家

が本当に多いです。視覚情報が溢れません。でもその戦略は単なるト

レードマーク作りに過ぎないです。そこから生まれるのはバリエーシ

本に関する言語を用いる以上対象は人間に限定されますし、人と人が結びつくと、必然的に感情が生まれます。自然や宇宙は人間の感情を超えた透き通った世界です。僕は子供の頃の記憶や娘をはじめとする人々との出会いを通して芽生えた人間的な感情が、宇宙のような透き通った世界を経由しつつ相互に跳ね返つてくるようにしたい。日本の詩人だとたと思います。あの独特な静けさはまだ・みちおさんはそれをやつていたと思います。宇宙を経由した言葉をこちらに投げかけているような気がします。当たり前のことを本当にそのまま書いているのですが、嬉しいや悲しいなどの感情からかけ離れた世界を感じますね。

——鈴木さんは東京藝術大学大学院で教育にも携わっています。

教えるというよりも、世界中から

集まつた作家の卵とドローイングセ

ッショングをしている気持ちで臨んで

います。今の美術教育やアートの世

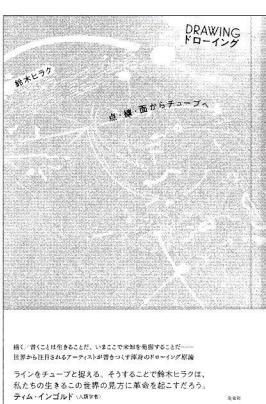
界は完成形を作ることに固執して、

過程よりも結果が重視されています。

だから逆算的に作品を作る若い作家

が本当に多いです。視覚情報が溢れません。でもその戦略は単なるト

レードマーク作りに過ぎないです。そこから生まれるのはバリエーシ



DRAWING ドローイング  
点・線・面からチューブへ  
2023年9月20日発行  
著者 鈴木ヒラク  
発行：左右社  
価格：2400円+税

ヨンでしかない。逆算じゃなく、知らぬ土地を散歩するような方法で制作させるとみんな面白いものを見せてくれます。

あと最近は逆算することをスタイルって言ってしまう傾向があります。けれども本来スタイルっていうのは先の尖ったものという意味で、自分でコントロールできないものに先端で触れることに意味があるんです。



すずき・ひらく 1978年宮城県生まれ。2001年武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業。08年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。

Information  
鈴木ヒラク「今日の発掘」  
会期 9月16日(土)~12月19日(火)  
会場 群馬県立近代美術館  
問い合わせ 027(346)5560

※1 オーネット・コールマン (1930-2015年)  
アメリカ合衆国生まれのジャズ・サックス奏者。フリージャズの先駆者としても知られる。

※2 ウィリアム・S・バロウズ (1914-197年)  
アメリカ合衆国生まれの小説家。1950年代のビート・ジェネレーションを代表する作家の一人。

※3 ブライアン・ガイン (1916-1986年)  
イギリス生まれのフランス人画家、著述家、音楽詩人、パフォーマンス・アーティスト。親友の小説家ウィリアム・S・バロウズとともに、カットアップの手法を用いたことで知られる。

むしろ僕は自分が書いた線に驚きたくてずっとやっているのかもしれません。そのためにはそういう目の前の不思議に集中できる状況をまずセツトすることが重要で、自分にとつてそれがシルバーインクであつたり石を使つたりすることでした。入り口をセツトすると、あとはもう歩いていけば見たことない景色が見えてきますから。

トする事が重要で、自分にとつてそれがシルバーインクであつたり石を使つたりすることでした。入り口を使つたりすることでした。入り口をセツトすると、あとはもう歩いていけば見たことない景色が見えてきますから。